

(最終評価)

事業名 (課題名)	ワカメ種系生産技術実用化試験			研究 期間	令和4～6年度 (評価期間：令和4～6年度)	予算 区分	県費
研究の成果							
A. 目標を超えて達成 B. ほぼ目標を達成 C. 目標をやや下回った D. 目標を大きく下回った							
委員名	1	2	3	4	5	6	まとめ
評価結果	B	A	A	A	A	A	A
主な意見							
①研究目標の達成について ・計画内容を十分に達成できている。 ・ワカメの種苗生産技術の確立及び早期生産手法の検討が出来た。フリー種系による生産における課題を解決したほか、早期養殖法が可能なことを示すことができた。 ・種苗生産マニュアルの作成まで完了しており、計画どおり達成された。 ・栽培センターで十分に対応できるフリー配偶体の生産技術が考慮されている。							
②成果の水準について ・愛知県で課題となっていたフリー種系の生産技術を確率できたことは、ワカメ養殖の効率的な生産と経営の柔軟性を高められるため、有益性が高い。 ・この技術はマニュアル化できており、栽培漁業センターでの生産に活用することができる。 ・養殖現場で十分に活用が見込まれる有益な技術である。 ・種苗生産施設や養殖業者に有益な成果が得られている。 ・海況（水温）に応じた種系生産の開始時期の対応や、労力の削減も可能とした。							
③貢献度について ・県の水産業の振興に大きく貢献できるポテンシャルがあると考えられる。 ・ワカメ養殖業は冬の基幹漁業の一つであり、効率的な生産技術の確立は有益。 ・生産開始時期を早くして、安定した生産への貢献が期待できる。 ・種苗生産の安定化や養殖業者の収益増大に資する可能性がある。 ・栽培センターへの技術移行を可能にし、愛知県のワカメ養殖に必要な種系が供給できる。							
④普及性について ・マニュアル化されており養殖現場への実装に障壁も低く、普及できる可能性が大いにある。 ・種苗生産技術は、専門的な施設での活用が適当であるが、生産手法は普及の可能性が高い。 ・養殖現場で普及が見込まれる技術開発である。 ・種苗生産施設や普及組織との連携を図ることにより普及の可能性はある。 ・栽培センターでの利用として実用化でき、種系生産時期も調整できる。							
⑤総合評価 ・事業化・実装できる水準で研究成果を得ており、その早い波及が待たれる。種系の制作手法の改良により収穫量等への影響も抑えている。また、単価の高い早期養殖の可能性も示しており、安定かつ効率的な養殖が事業者の経営安定や増収増益に貢献できる成果である。愛知県として種系生産技術を確立し、マニュアル化できたことの意義は大きい。ブルーカーボンクレジットにおいても養殖藻類の貢献が注目されており、愛知県におけるブルーカーボンへの取り組みの拡大にも寄与するものと思われる。 ・本技術は、ワカメ養殖漁業者の労力を軽減すると期待できることから、漁業者（特に高齢者）には有用な技術である。今後は、養殖漁業者に広く本技術を用いた生産手法を普及させ、ワカメの安定生産に寄与することを期待する。なお、早期養殖と通常養殖で製品の品質や市場価格において差ができるのかモニタリングしてみる必要があると考える。 ・ワカメ養殖は本県の冬の基幹漁業であり、安定生産につながる試験成果は非常に有益である。また、近年、水産物の生産向上を図るため、養殖業の強化が図られている。藻類もその対象							

であり、このような技術開発は養殖拡大に向けても有効な技術である。

- ・フリー配偶体を用いた種糸生産技術が確立された。また、作成したマニュアルにより、技術が広く、正確に普及することが期待される。早期養殖法が可能なことを実証し、漁家経営の改善につながる方策を提示することができた。
- ・種苗生産施設におけるワカメ生産技術の安定化に資するとともに、茎が細くなるといったフリー種糸の抱える課題の解決や単価の高い秋冬の生産量増大を図る早期養殖を実現する技術開発は、養殖業者にとっても非常に有益な研究成果として高く評価できる。また、種苗生産マニュアルの作成によって技術移転にも力を入れている。
- ・ワカメ養殖業者への種糸供給ができ、安定したワカメ生産に大きく貢献できる。また、フリー培養による高温耐性等の品種改良への道筋が開かれた。愛知県の漁場に適合した種糸生産手法として高く評価できる。

機関としての対応方針

総合評価は「A」評価であり、目標を超えて達成したと判断する。

フリー種糸生産技術の確立については、茎が細いなど、ワカメ形態に関する問題を克服することができ、また、フリー種糸を用いて従来よりも早期に養殖を開始することにより、単価の高い年内の収穫増加が期待できることが明らかとなった。

委員の意見を受け、今後は養殖現場への実装を見据えた情報提供等に取り組み、安定したワカメ生産に貢献する。